

福光町

文化財センター

医王山文化調査報告書

医王は染る

富山県福光町
医王山文化調査委員会

題 字 桃 野 忠 義
イラスト 尾 山 章

医王は語る

富山県福光町
医王山文化調査委員会



▲冬の医王山遠写（役場庁舎より）



▲夏の医王山遠写（林道赤祖父線より）



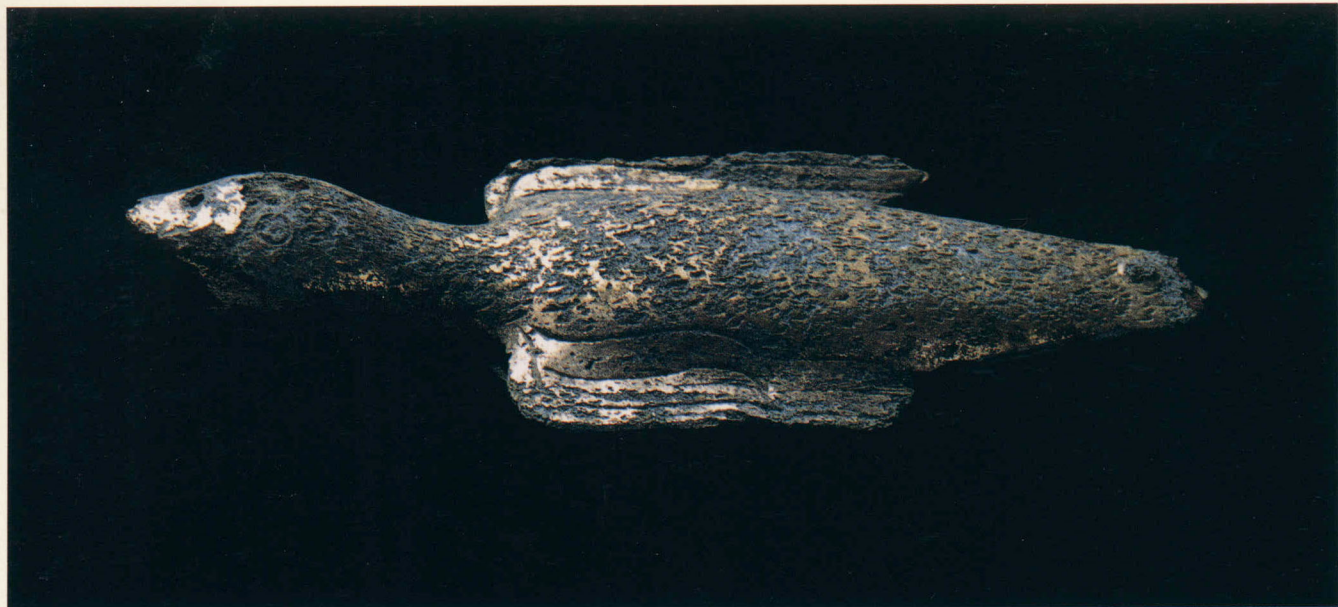
▲白兀より奥医王，白山を眺む



医王山空中写真

①大池平 ②大沼 ③鳶岩 ④はしご坂 ⑤三蛇が滝 ⑥豊吉川 ⑦二俣登山道 ⑧黒瀑山
⑨百万石道路 ⑩国見ヒュッテ ⑪医王権現 ⑫三千坊展望台

(撮影／平成2年12月13日14時 撮影縮尺／1：10000 撮影高度／1,000 m)



鳥形金銅製品（若宮遺跡出土）横面



腹面



背面

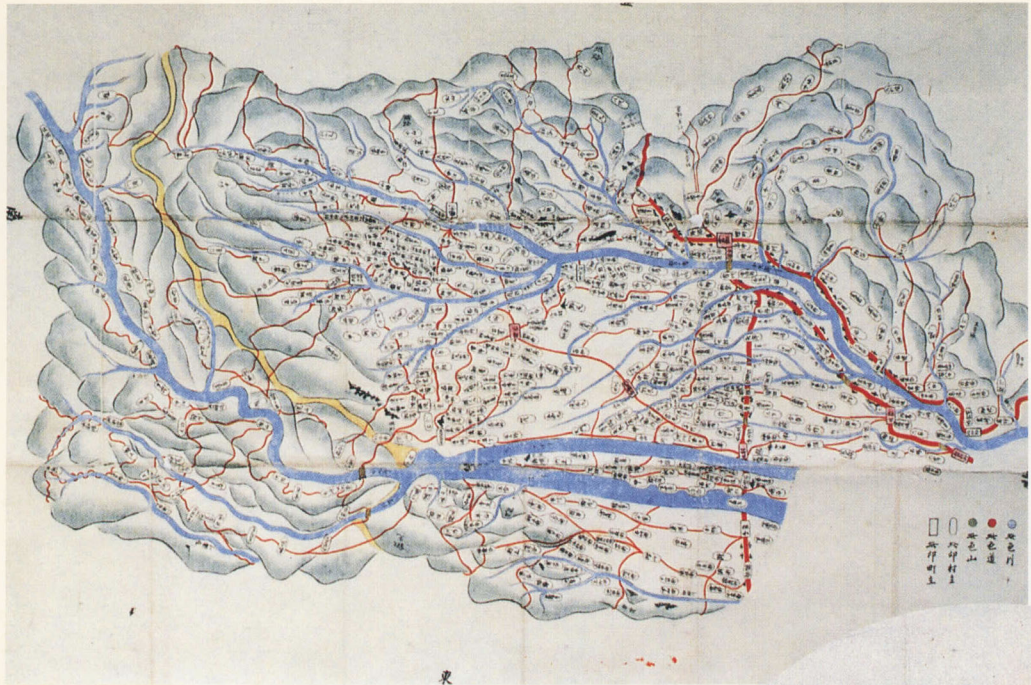
（原寸より1.3倍に拡大）

國宗寺領地中國石靈山領地
右對之者如中國中者以顯者山田領地也
靈山寺大將家并左衛門外藤井時餘東之序床家
四郎佐實等三郎有雅雅花冷地頭餘依本心
被傳心早而之朝祖又定直器成領家房人之向自相家所
司餘是上負直越請文并急狀及名簿連卷之且前給出
傳心地頭職之由被載元久三年抄教書單背以故奉
押領師務之上早任師契物傳心之朝堂地頭
如定朝堂地頭領地之也
靈山寺一底石屋上中下為一底石屋
為一底石屋三底石屋是也何以山田領地
次負直者自領家補任下司職中事奉以休者不及
馬頭成給女場下文之後馬頭家所家人俗化將軍海下
及子細次元久抄教書單背以故奉押領師務之上早任
奉為領家奉勤也何以彼狀中令子細進退義公於武國
領馬山田領地之由令在知有文職牙新田領家何
定朝請文之七被載然而地頭不合取用之三代知事
仙城之靈山寺中五龍顯馬山田領地之也
文之朱其新地中長行教書月令指給

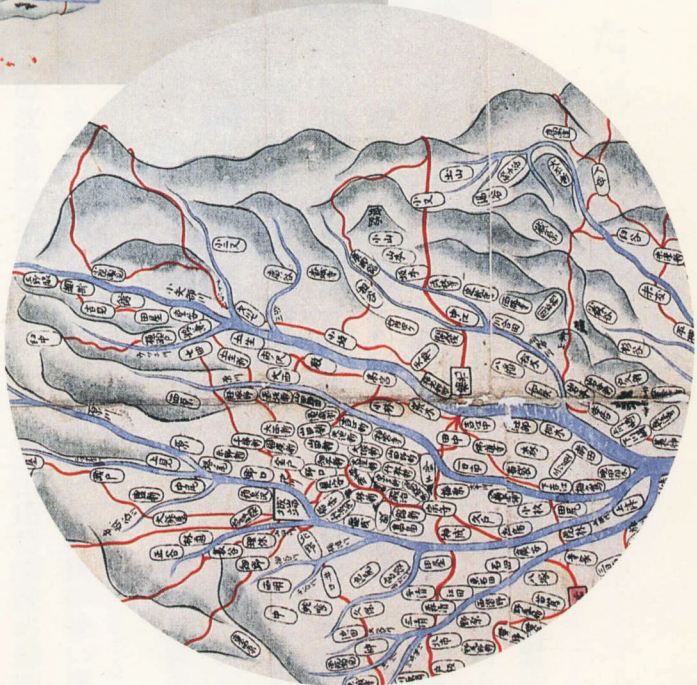
一 柿谷寺事
右如定朝中者先相定得進之同子息定後卜屋敷於寺之
上有墓所預所者不下墓所為代、以寺之向定後以院主職牙
神田謙与子息信足清平但院主初任之時如形引進見家新
於預所之外全以預所不相交之當當預所居坊舍令施行
地頭建立寺者預所不相交之條傍例證文進之、如幸國寺者
再泰隆大師建立之同經數百歲生霜早、何定得進之寺
中或白白山末寺之上藤家寺宿也院主職者代、領家進定同預
所令居任早、定朝中云雖馬路建立地頭進之習山師進寄之
時依校宜令定早宿有先例也然者、前寺雖與醫王山一宿何
非地頭進定哉、幸國中云醫王山一宿之由來伏之上勿給也、
若地頭建立後時又為預所進退否、其以與指證傍例則故奪同
在案、幸有右石書
一 加敬事
右如定朝中者領家但宣町者自元不取加敬於預所給田武
者自往古地頭加敬、定朝之歲實地持任之後令折留、如幸
國中當果久以前者地頭不取、如加敬定收所教書者所隱情現

「柿谷寺事」の件

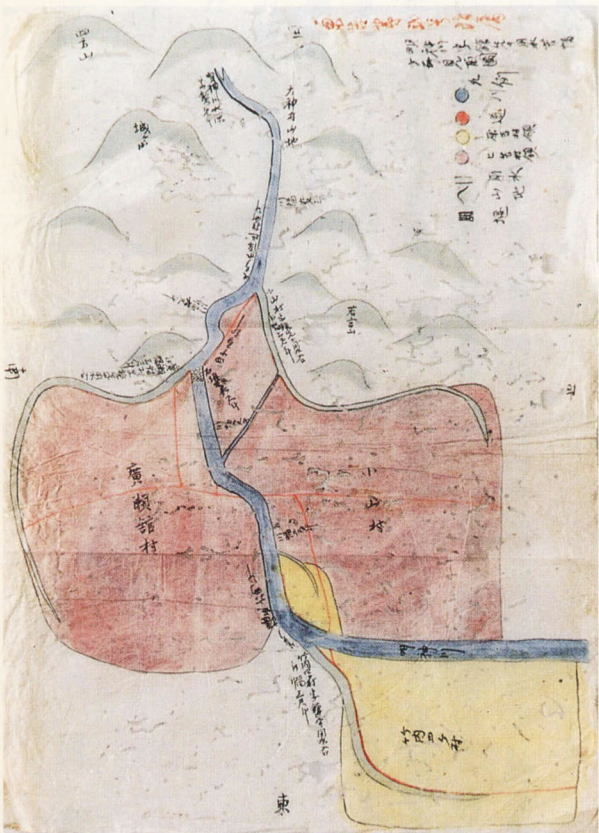
下向難不寺新不教妨之由定朝中之地止不及具儀同方違訂
出物事号先例自百姓等之年賣取之條、其謂早可定、以地頭
方五郎傳手重取方違訂出物事、同以任傳例可令傳心之也
次地頭也當并其分事、萬不實之有定朝論中之上勿論焉
一 天滿高宮兩所市事
右幸國則付市者、其百位、或主預所分地之、意不相交預
所之由中、之定朝、其馬地頭沙終、此地頭、新田并無主、
行、而不相交預所者、及預所合立市、於荒野者、地頭不交
申、有申之者、付市下地、并立市之時、預所合立力書被
幸、向、有、居、無
以前、給、大、概、如、此、報、書、事、十二月、成、給、下、知、狀、於、南、方、早、而
罪、章、方、下、知、狀、於、奉、清、國、八、橋、宿、合、燒、失、之、由、申、之、向、以、先
後、府、案、宜、所、破、單、下、也、若、依、將、軍、案、作、下、知、如、付
弘長二年三月一日
出藏守平知書
相模守平知書
仁知寺
心蓮院



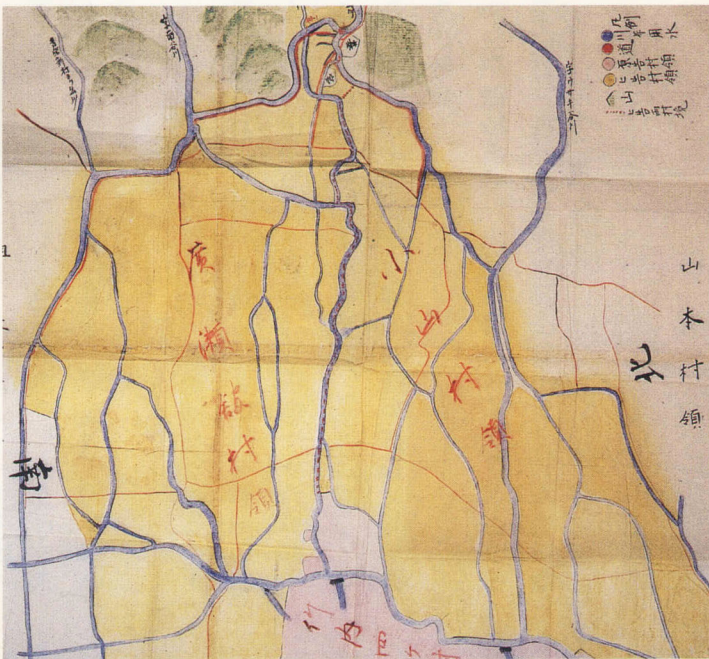
▲前田藩砺波引図



▲左上図拡大（福光周辺）

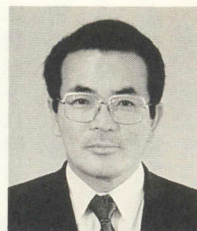


▲明神川字鎗先キ用水苦情ヶ所見取図



▶明治16年広瀬館・小山両村と竹内4ヶ村水争い時の被告小山村作成絵図

発刊にあたって



富山県の最西部、石川県金沢市との境に位置する医王山^{いおうざん}は、古くより泰澄開山の山として人々に崇められてきた霊山であります。しかし、往古四十八か寺三千坊があり、山岳宗教のメッカであったと今に伝えられているほどには、その様態は明らかではありません。

瑞泉寺記録『闘諍記』によれば、文明十三年（一四八一）春の田屋川原の戦いに石黒右近光義と育王仙惣海寺衆徒は、井波瑞泉寺一向衆徒、それを助ける加賀湯涌谷衆によって敗れ、医王山全堂宇が焼き払われてしまったと伝えています。そのためか今まで医王山中にはそれらしき寺跡やそれに類する確かな遺跡は発見されていませんでした。ただ、医王山麓には「寺跡」とおぼしき地名が随所にあること、三千坊出土の須恵器の坏や、グンド原で拾われた鑿^{きん}などが、わずかにその痕跡を留めています。

今回行なわれたこの調査事業は、町民の強い要望により、ふるさと創生事業の一環として我々の心の故郷再発見とも言うべき医王山山岳宗教の解明、また人々が山から受ける恩恵の数々、そこから派生する文化を究明しようとするものであり、当町のような規模の自治体では、行なわれることが稀な学術的総合調査事業であります。

調査に際しましては、松村栄吉委員長を始め、町内外二二名の委員が精力的な調査活動を推し進められました。そのご労苦に対し深甚の敬意を表します。また、資料の提供者や関係各地区の皆様方、石川県教育委員会、金沢市教育委員会、並びに富山県教育委員会、その他各関係機関各位にも多大なご協力をいただきありがとうございました。また、この調査報告書作成にあたり、原稿を執筆していただいた方々、編集の労苦をとっていただいた方々に深く感謝の意を表します。

おわりに、この報告書が多くの人々に利用され、医王山を理解していただき、学術的には山岳宗教研究の一助ともなれば幸いです。

平成五年三月

福光町長 桃野忠義

はじめに

福光町民の医王山に対する熱い想いが、ふるさと創生事業の一環として医王山文化調査事業にふみさらせた。そして平成二年度より四年度にわたる三年の調査事業を石川県教育委員会、金沢市教育委員会、富山県教育委員会の協力を得て実施された。本書はその調査で得た成果の報告書である。

今回の調査事業の主眼点は四十八か寺三千坊伝承で代表される医王山山岳宗教の解明にあり、そこから派生する文化を探っていこうとしたものである。

医王山山岳宗教の解明については、これらに関する古文書類や石造物なども皆無の状態であり、医王山全体の調査となると範囲も広く、当初より不安視されていたが、幸いにも県内外、各界の学識経験豊富な方々の御指導を得て平成二年五月二十六日、第一回医王山文化調査委員会の開催にこぎつけ、調査委員二二名が選任され、考古学部会、史学・民俗学部会の二部会が結成された。後に調査協力員の方々の御参加を得て調査に厚みが加わった。

考古学部会では医王山の遺跡分布調査や発掘調査並びに関連遺跡の測量調査に全力を傾け、香城寺惣堂跡から珠洲の壺や九世紀の土器出土が続き、第一のピークを迎えた。平成三年度の福光町一〇大ニュースの五位に、香城寺惣堂遺跡発掘がランクされるという町民のこの事業に対する高い関心が示された。第二のピークは元若宮跡から鳥形金銅製品の発掘である。本文中に詳しく報告されているが、鎌倉時代の製作との鑑定を得て、俄然色めきたった、というのは、本調査で唯一権威のある古文書「関東下知状」柿谷寺と関連があるのではないかとみられたからである。

現在各地で発掘調査事業が進められているが、これらの殆んどは開発事業に関わる緊急発掘調査である。これに対し、本調査はむしろ保存調査であり総合学術調査である。しかも一自治体の学術調査で、調査年限や経費に制約

があるにもかかわらず、熱心に調査をしていただいた。その並々ならぬ熱意は史学・民俗学とのすり合わせのための研修会や、山岳寺院発掘者を迎えての研修会など、多忙の調査時間をさいて持たれたことなどにみることができた。

史学・民俗学部会では、医王山麓地区の聞き取り調査、神社仏閣や石造物の現地調査等が精力的に行なわれた。調査委員・調査協力員の調査回数は延べ一四一回、それに関連した人数は一、二〇〇人にも及んだことがそれを裏づけると思う。忘れてならないことは、各地区の方々が非常に好意をもって協力いただいたことである。でなければ実質二年間でこれだけの調査結果を得ることは至難であつたろうと思われる。

このようにして、厚いベールに包まれていた「医王」はその深い眠りからようやく目覚め、我々にその歴史の一端を語ってくれようとしている。

最後になったが本報告書の監修者を心よくお引き受けいただき、現地調査や研修会などに精力的に御参加いただいた、故大谷大学文学部教授黒田俊雄先生、旧岩木村の歴史をまとめられ「荊波の里」を遺して逝かれた調査委員故斉藤信一氏の生前の御尽力に感謝し謹んで御冥福をお祈りしたい。

医王山文化調査委員長

松村 栄吉

例言

一、本書は「ふるさと創生事業」の一環として実施した、霊峰医王山の歴史と文化を探る、医王山文化調査の報告書である。

二、調査は、平成二・三・四年度の三か年に亘り実施した。

三、調査は、(一)考古 (二)歴史 (三)民俗の三部門にわたって行った。

四、調査を実施するに当たり、福光町教育委員会教育長の指揮のもとに、調査委員会事務局を平成二年度、福光町立図書館内に、平成三年度からは福光町教育委員会振興課におき、石川県教育委員会、金沢市教育委員会並びに富山県教育委員会の協力を得て、調査委員会を編成した。

五、調査委員会の編成は、次のとおりである。

委員長	松村 栄吉	元福光町教育委員長
副委員長	溝口 博文	福光町文化財保護委員長
委員	定村 武雄	福光町文化財保護副委員長
委員	宇野 隆夫	富山大学文学部教授
委員	千秋 謙治	元富山県埋蔵文化財センター所長
委員	橋本 澄夫	石川県埋蔵文化財センター所長
委員	西井 龍儀	日本考古学協会会員
委員	橋本 芳雄	元富山県史編纂委員
委員	宮本 哲郎	日本考古学協会会員
委員	宇佐美 孝	金沢市立図書館主査
委員	竹森 靖	北陸史学会会員
委員	久々 忠義	富山県埋蔵文化財センター主任

往藏久雄	富山考古学会会員
堀与治	福光町文化財保護委員
高坂制立	福光町文化財保護委員
豊田昇	福光町文化財保護委員
斉田正雄	元福光町史編纂委員会室長
松村 寿	郷土古文書調査員
桃野 八郎	郷土歴史調査員
加藤 昭一	郷土歴史調査員
笠田 喜八郎	郷土歴史調査員
斉藤 信一(故)	郷土歴史調査員
黒田 俊雄(故)	大谷大学文学部教授
大山 喬平	京都大学文学部教授
局長 長沢 喜一	福光町図書館長
局員 得地 和彦	福光町図書館長補佐
局員 定作 修信	福光町図書館管理係長
局員 島 和代	福光町図書館主任
局員 土居 ユリ子	福光町図書館庶務
局員 前田 廣	福光町図書館嘱託
局長 飯田 滋	福光町教育委員会次長
局員 得地 和彦	福光町教育委員会振興課主幹
局員 中島 英二	福光町教育委員会振興課長補佐(三年度)
局員 尾山 章	福光町教育委員会振興課長補佐(四年度)
局員 荒井 隆	福光町教育委員会振興課主事(四年度)
局員 土居 ユリ子	福光町教育委員会振興課庶務(三年度)
局員 竹田 菊枝	福光町教育委員会振興課庶務(四年度)

六、本委員会に考古学部会、史学・民俗学部会を設置した。
考古学部会
史学・民俗学部会

部会長	宇野隆夫	部会長	千秋謙治
副部会長	西井龍儀	副部会長	高坂制立
部員	橋本澄夫	部員	溝口博文
〃	久々忠義	〃	定村武雄
〃	宮本哲郎	〃	橋本芳雄
〃	往蔵久雄	〃	宇佐美孝
〃	松村栄吉	〃	竹森靖
〃	堀与治	〃	斉田正雄
〃	豊田昇	〃	松村寿
〃	桃野八郎	〃	笠田喜八郎
〃	加藤昭一	〃	斉藤信一(故)

七、本書の分担別執筆者は、次のとおりである。

序章 医王山文化調査の足跡

(一) 調査の経緯

調査委員会事務局

第一章 医王山の自然

(一) 位置・地形・地質

中村健二

(二) 動植物

堀与治

第二章 医王の山と里の遺跡を語る

(一) 調査の概要

西井龍儀

(二) 測量調査の成果(1節〜13節)

西井龍儀
宇野隆夫
西井龍儀
久々忠義
宮本哲郎
往蔵久雄

(2節(4))
(2節(24)・12節(2))
(三) 発掘調査の成果(1節〜4節)

第三章

医王の山と里の歴史を語る

(一) 医王山修験から里の修験へ

木場明志

(二) 医王山麓における真宗の足跡

草野顕之

(三) 医王山麓の平野における中世の景観

金田章裕

(四) 明治の裁判絵図からみた石黒庄弘瀬郷郷域

大山喬平

(五) 関東下知状(古文書)読み下し

金井静香

第四章

医王の山と里の民俗

(一) 医王山麓の村々と民俗

1、山と信仰

定村武雄

2、山とくらし

桃野八郎

3、山と村

笠田喜八郎

前田廣

宮本哲郎

往蔵久雄

- (二) 医王山東山麓の堂祠と信仰 千秋謙治
- (三) 医王山山岳信仰伝承(医王山系寺院調査) 溝口博文
- (四) 医王山麓の伝承地名 中村健二
- (五) 医王山をめぐる古道 松村寿
- (六) 福光町の中世石造遺物 尾田武雄
- (七) 医王山をめぐる伝説 樽谷雅好
- (八) 医王山と登山 松村寿
- (九) 医王山と文学 松村寿

八、本書の編纂は、(故)大谷大学文学部教授黒田俊雄氏、京都大学文学部教授大山喬平氏の指導をえて調査委員会事務局が担当した。

九、当委員会が執筆を依頼し、原稿をお寄せいただいた方々は、次のとおりである。記して謝意を表するものである。

- 木場明志 大谷大学文学部助教授
- 金田章裕 京都大学文学部助教授
- 草野顕之 大谷大学文学部専任講師
- 中村健二 金沢大学理学部前任技術専門職員
- 森沢佐歳 富山医科薬科大学医学部第一解剖学助教授
- 邑本順亮 高岡市立高陵中学校校長
- 金井静香 京都大学大学院史学研究科
- 尾田武雄 北陸石仏の会事務局員
- 樽谷雅好 (財)高岡市民文化振興事業団理事
- 布目順郎 富山県日本海文化研究所長
- 宮田進一 富山県文化振興財団埋蔵文化財課係長
- 岸本雅敏 (富山県文化課副主幹)
- 木村久吉 (元金沢大学薬学部助教授)

十、本調査委員会に対し、指導、助言をいただいた方々は、次のとおりであった。記して謝意を表するものである。

- 京田良志 (日本考古学協会会員)
- 楠瀬勝 (高岡法科大学教授)
- 久保尚文 (富山県立富山高校教諭)
- 木原國昭 (金沢大学理学部助教授)
- 紮野義夫 (北陸地質研究所所長)
- 久保智康 (京都国立博物館学芸員)
- 坪井清足 (大阪文化財センター理事長)
- 谷内尾晋司 (石川県教育委員会文化課課長補佐)
- 山岸共 (金沢市郷土史家)
- 湯尻修平 (石川県埋蔵文化財センター企画調整課長)
- 佐伯安一 (砺波市郷土資料館館長)
- 戸潤幹夫 (石川県立博物館学芸員)
- 垣内光次郎 (〃埋蔵文化財センター主事)
- 高岡徹 (とやま歴史的環境づくり研究会代表)
- 桃野真晃 (富山県埋蔵文化財センター所長)
- 高瀬保 (富山県郷土博物館館長)
- 富田正弘 (富山大学人文学部教授)
- 長谷川和衛 (富山民俗の会会員)
- 武田吉三郎 (元福光町文化財保護委員長)
- 石崎俊彦 (元福光町立福光図書館長)

なお、本文中、参考文献・資料提供・その他引用させていただいた方々の敬称は略させていただきます。

目次

発刊にあたって

はじめに

例言

序章 医王山文化調査の足跡

(一) 調査の経緯 1

第一章 医王山の自然

(一) 位置、地形、地質 7

1、位置と地形 7

2、地質 7

(1) 医王山累層、(2) 砂子坂凝灰質砂岩泥岩互層、(3) 土山凝灰岩層（七曲凝灰岩層）、(4) 朝ヶ屋泥岩層、(5) 蔵原砂岩層、(6) 高窪累層、(7) 大桑累層、(8) 埴生層（卯辰山層）、(9) 戸室火山噴出物、(10) 医王山累層産のヤシの材化石

(二) 動植物 12

1、医王山の生物生存の環境的要因 12

(1) 気象、(2) 地形

第二章 医王の山と里の遺跡を探る

(一) 調査の概要 17

1、調査の目的と方法 17

2、調査の経過 18

(二) 測量調査の成果 25

1、太美山地区 25

(1) 樋瀬戸道場

2、西太美地区 26

(1) 香城寺遺跡、(2) 古宮石組、(3) 香城寺ジョウジャ畑遺跡、(4) 香城寺惣堂遺跡、(5) ノマの谷遺跡、(6) 有縁寺跡、(7) 塚経塚、(8) 香城寺御坊山・用口谷平坦面、(9) 前医王平坦面、(10) 松尾寺跡、(11) オオクボ惣海寺跡、(12) 広谷八坂・上寺跡、(13) 広谷行者窟、(14) 広谷御坊山平坦面、(15) グンド原（群堂ヶ原）、(16) 香山寺跡、(17) 古館神明社跡の五輪塔、(18) 白米玉座、(19) 宗善寺遺跡、(20) ショウゴン寺遺跡・才川七御坊山、(21) ハクラクデン窯跡、(22) 松寺永福寺跡・アミダ田、(23) 才川城跡、(24) 古館遺跡

2、生物から見た医王山の特徵 12

3、動物相 12

(1) 哺乳類、(2) 鳥類、(3) 爬虫類、(4) 水生昆虫、(5) 魚類、(6) 昆虫類、(7) 昆虫を一覧して

4、植物相 13

(1) 南方系、北方系植物の混生する医王山、(2) 医王山に見られる日本海側の代表植物、(3) 群落や群集、(4) 四季の植物、(5) 紅葉と実、(6) 食用植物と薬用植物

5、文化調査地と植物 16

3、	広瀬館地区	60
	(1)丸山・大コバ平坦面、(2)梨木平、(3)矢倉畑遺跡、(4)祖谷神明社遺跡、(5)館白山遺跡、(6)館御坊山の平坦面、(7)妙敬寺・柿谷寺跡、(8)広瀬城跡(館城山)、(9)フジガ谷・日野々の平坦面、(10)小坂善吹谷の平坦面、(11)小坂狐上平坦面、(12)三千坊跡、(13)千手堂跡	
4、	広瀬地区	78
	(1)若宮遺跡、(2)小山登屋尾の平坦面、(3)山本経塚遺構群、(4)法林寺尾の平坦面、(5)山本城跡、(6)梵浄寺跡	
5、	石黒地区	85
	(1)寛証寺跡、(2)笹塚遺構群、(3)妙法寺跡・光徳寺、(4)桑山城跡・ジゲ寺跡、(5)最勝寺跡・高楯城跡、(6)記塚・荊波神社、(7)愛宕社・諏訪社跡、(8)岩木窯跡群、(9)岩安神明社、(10)石黒墳墓群	
6、	南蟹谷地区	101
	(1)土山御坊跡、(2)高木場御坊跡、(3)安養寺御坊跡	
7、	医王山地区	105
	(1)砂子坂道場跡、(2)奥新保安念林遺跡、(3)田島ヒョットの宮・ウルシバラ遺跡、(4)大沼周辺の遺構、(5)奥医王山の遺構・遺物	
8、	湯涌地区	119
	(1)町城跡、(2)東町遺跡・福神山城跡	
9、	俵地区	122
	(1)戸室山遺跡	
10、	東太美地区	123
	(1)是ヶ谷池遺跡、(2)土生新経塚、(3)次郎右エ門堂、(4)立野ヶ原の遺構・遺物	
11、	吉江地区	128
	(1)高宮野丹保遺跡、(2)仏土寺跡・田中遺跡	

12、	北山田地区	133
	(1)宗守寺屋敷遺跡、(2)梅原胡摩堂遺跡、(3)真教寺、(4)伝田屋川原出土の具足、(5)鍛冶の板石塔婆	
13、	福光地区	141
	(1)福光城跡の五輪塔、(2)善徳寺掛所、(3)五瀬遺跡・殿館遺跡	
(三)	発掘調査の成果	143
1、	香城寺惣堂遺跡	143
	(1)遺跡の立地、(2)発掘調査と層位、(3)平坦面と各遺構、(4)墳墓、(5)遺物、(6)福光町香城寺惣堂遺跡石組等の石質について、(7)香城寺惣堂遺跡第10号墓蔵骨器内出土骨について、(8)小結	
2、	シヨウゴン寺遺跡	183
	(1)遺跡の立地、(2)層位、(3)平坦面と各遺構、(4)遺物、(5)小結	
3、	若宮遺跡	197
	(1)遺跡の立地、(2)平坦面と各遺構、(3)遺物、(4)小結	
4、	発掘調査のまとめ	206
(四)	医王山山岳宗教遺跡の構造と沿革	209
1、	医王山の平坦面	209
	(1)はじめに、(2)自然面と造成面、(3)標高別分布と規模、(4)城郭と真宗道場の平坦面、(5)医王山山岳宗教関係の平坦面、(6)平坦面の造成時期、(7)まとめ	
2、	医王山の塚と石組について	215
	(1)塚と石組の概要、(2)塚と石組の形態と築造時期、(3)塚と石組の性格について、(4)墓・経塚・基壇築造の背景、(5)まとめ	

第三章 医王の山と里の歴史を語る

3、本願寺派の拠点寺院	224
(1) 個々の寺跡の概要、(2) まとめ	
4、結 び	235
医王山修験から里の修験へ	243
1、医王山修験の伝統	243
(1) 医王山修験の伝承、(2) 明治以降も続く伝統	
2、医王山修験の歴史的景観(古代・中世)	248
(1) 医王山修験の盛衰、(2) 医王山修験の足跡	
3、里の修験へ(近世)	257
(1) 里修験の成立と推移、(2) 里修験の活動	
(二) 医王山麓における真宗の足跡	268
1、医王山惣海寺の滅亡	268
(1) 『闘諍記』の内容、(2) 石黒軍と瑞泉寺勢の衝突、(3) 加賀山湯涌谷衆の急襲、(4) 『闘諍記』の書き込み、(5) 『闘諍記』から見られる文明十三年越中一向一揆の諸問題	
2、瑞泉寺の諸問題	271
(1) 瑞泉寺の建立、(2) 瑞泉寺の展開、(3) 本泉寺の別立、(4) 瑞泉寺の性格	
3、本泉寺の諸問題	274
(1) 本泉寺の建立と展開、(2) 本泉寺の寺基移転、(3) 勝如尼の性格	
4、土山坊(勝興寺)の諸問題	276
(1) 土山坊の成立と展開、(2) 『反古裏書』の記述、(3) 土山坊の性格、(4) まとめ	
5、医王山麓の真宗の道場	279
(1) 中世後期砺波郡域の宗教状況、(2) 大谷一族の越中非真宗寺院への入寺、(3) 医王山惣海寺系寺院の転宗伝承—宗善寺・永福寺の場合、(4) 医王山惣海寺系寺院の転宗伝承—善性寺の場合、(5) 他地域の転宗伝承をもつ真宗寺院、(6) 医王山系以外の寺院からの転宗伝承—高宮随順寺の場合、(7) 転宗伝承の信憑性、(8) 中世後期村落真宗寺院の—様相—能美願成寺の場合	
6、結び—転宗の契機と文明十三年越中一向一揆蜂起の根拠	285
(1) 転宗の契機、(2) 蓮如の教説—一向一揆蜂起の根拠	
(三) 医王山麓の平野における中世の景観	288
1、古代の砺波郡	288
2、砺波郡の条里プラン	292
3、石黒荘弘瀬郷の開拓と土地利用	298
4、屋敷の分布と遺構	306
(四) 明治の裁判絵図からみた石黒庄弘瀬郷郷域	315
1、地域の歴史的景観	315
(1) 問題の所在、(2) 山田郷、(3) 弘瀬郷	
2、鎗先用水争いの発端	325
(1) 争いの原形—嘉永六年(一八五三)、(2) 広瀬館と小山の争い—明治十六年(一八八三)、(3) 小山村の用水系統	
3、明治十六年の用水訴訟	330
(1) 事件の経過、(2) 伝統的秩序の解体過程	
4、近世の歴史的景観—寛延二年(一七四九)	339
5、柿谷寺と若宮—残された課題	343

第四章 医王の山と里の民俗

(五) 関東下知状（読み下し） 346

(一) 医王山麓の村々と民俗 355

1、山と信仰 355

- (1) 山祭り、(2) 山行き、(3) 山の神、(4) 山中の小堂や石仏、
(5) 雨乞い、(6) 山での忌みごと、(7) 忌まれている場所、(8)
妖怪、(9) 天候の予知、(10) 呪い

2、山とくらし 362

- (1) 炭焼き、(2) なぎ畑、(3) 製紙、(4) 漆、(5) 石切り、(6) 薬草、
(7) かくせつ、(8) 水力発電

3、村と山 372

- (1) 入会山、(2) 惣山、(3) 医王山惣山管理申合事項、(4) 山割、
(5) 山火事

(二) 医王山の山麓堂祠と信仰 376

1、医王山東山麓の堂祠概観 376

- (1) 近世における医王山山麓の堂祠

2、時宗と熊野信仰とのかかわり 379

- (1) 時宗過去帳と吉江、(2) 時宗と熊野の結びつき、(3) 最勝
寺と善光寺・善光寺聖と砺波郡、(4) 近世の時宗と遊行上
人

3、立山権現の出開帳と姥尊 383

4、富士権現と寛仁寺 383

5、砺波郡に多い諏訪社 385

6、民俗信仰と現世利益 385

- (1) 民俗信仰と真宗

7、福光町域における近世堂祠の規模 387

(三) 医王山山岳信仰伝承（医王山系寺院調査） 392

(四) 医王山麓の伝承地名 402

1、地名は伝承文化の証左 402

2、小名に多い当字 402

3、福光の地名 403

- (1) 産物に因む地名、(2) 祭祀にまつわる地名、(3) 戦乱時の
情報網か、(4) 生活に起因した地名、(5) 地形・地質に起因
した地名、(6) 人の行き交う様を地名に、(7) 人の名も地名
として、(8) 動・植物に因んだ地名、(9) ほのかな温もりを
もつ地名、(10) その他の地名、(11) 人母の地名

4、医王山周辺の小名図 405

5、金沢の地名 406

6、「谷」は地元の発音で 406

7、漢字の解釈は怖い 406

8、古文書による医王山東麓の地名（福光町史未集録分） 407

(五) 医王山をめぐる古道 411

1、朴坂越え（おこ谷越え、小又越え、二俣街道） 411

2、横根越え（横根坂峠、中根峠、横谷峠） 413

3、白はげ越え 414

4、かつ坂越え（かす坂越え、かれ谷越え） 415

5、釜中越え（鎌中越え） 416

(六)	福光町の中世石造遺物	418
-----	------------	-----

1、宝篋印塔	418
2、五輪塔	419
3、板石塔婆（板碑）	419
4、石 仏	419
5、岩安の弥勒石仏	426
(七) 医王山をめぐる伝説	428

1、信仰の原点―自然と怪異	428
(1)温泉と医王、(2)白山・立山・修験道、(3)正月の奇瑞、(4)竜神の末裔たち	
2、歴史の彩り―来訪者たち	431
(1)泰澄、(2)弘法、(3)蓮如、(4)平家物語の落人たち、(5)佐々成政、(6)その他	

(八)	医王山と登山	436
-----	--------	-----

1、登山以前	436
2、登山者の出現	436
3、スポーツ登山の山	437
4、大衆の山	438

(九)	医王山と文学	440
-----	--------	-----

1、泉鏡花「薬草取」	440
2、室生犀星「醫王山」その他	441
3、深田久弥「わが山山」	442
4、石崎光瑤「越中国医王山に遊ぶ記」	442

5、小川友親「医王山に登るの記」	443
6、漢 詩	443
7、短歌・俳句	443
8、その他	444

医王山文化調査を終えて	445
-------------	-----

あとがき

医王山文化調査協力者名簿

